

1. 略歴

- 1983年3月 東京大学文学部国史学専修課程卒業
1985年3月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程国史学専門課程修了
1987年3月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程国史学専門課程中退
1987年4月 山梨大学教育学部講師（歴史学）
1990年9月 山梨大学教育学部助教授（歴史学）
1994年11月 博士（文学）
1997年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授
2010年7月 東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動**a 専門分野**

日本古代史

b 研究課題

古代天皇制、日唐律令制比較研究、摂関期国家の研究

c 主要業績**(1) 著書**

- 共著、佐藤弘夫ほか編、『日本思想史講座1』、ぺりかん社、2012.4
共著、山中裕編、『御堂関白記全註釈寛弘六年〔改訂版〕』、思文閣出版、2012.9
単著、大津透、『律令制とはなにか』、山川出版社、2013.3
共著、大津透ほか、『岩波講座日本歴史1 原始・古代1』、岩波書店、2013.11

(2) 論文

- 大津透、「歴史の風 中国からみる古代日本」、『史学雑誌』、121 編 7 号、38-40 頁、2012.7
大津透、「古代日本律令制の特質—天聖令の発見・公刊によってみえてきたこと」、『思想』、1067、27-51 頁、2013.3
大津透、「藤原道長の歴史的意義」、『むらさき』、50、4-13 頁、2013.12

(3) 書評

- 荒川正晴、『ユーラシアの交通・交易と唐帝国』、名古屋大学出版会、『史学雑誌』、121 編 3 号、79-86 頁、2012.3
義江明子、『古代王権論 神話・歴史感覚・ジェンダー』、『史学雑誌』、121 編 9 号、59-74 頁、2012.9
鹿内浩胤、『日本古代典籍史料の研究』、『史学雑誌』、121 編 10 号、109-110 頁、2012.10

(4) 解説

- 大津透、「『史書を読む』解説」、坂本太郎著『史書を読む』、233-240 頁、2013.10

(5) 学会発表

- 国内、大津透、「古代日本律令制の特質」、法制史学会第 64 回総会、金沢スカイホテル、2012.6.17
国内、大津透、「藤原道長の歴史的意義」、紫式部学会創立 80 周年記念講演会、東京大学、2012.12.1

(6) 会議主催(チェア他)

- 国内、「第 57 回国際東方学者会議」、チェア、天聖令と律令制比較研究 II、日本教育会館、2012.5.25

3. 主な社会活動**(1) 学会**

- 国内、日本歴史学会、理事、2010.7～
国内、史学会、理事、2011.5～
国内、東方学会、理事・評議員、2009.9～2013.3、理事、2013.4～、東方学編集委員、2012.1～